

# まことの神の家はどこか？

2022年6月12日

使徒の働き 7章44～50節  
サムエル記Ⅱ 7章1～29節  
出エジプト記 25～27章

序：ステパノの弁明

父祖アブラハムから始まった選民イスラエルの歴史（神の召命）

イサク ⇒ ヤコブ（イスラエル） ⇒ 12人の息子

ヨセフのいるエジプトへ移住 ⇒

奴隷生活（人数増加、土地は墓地のみ） ⇒ 出エジプト ⇒ カナンを目指す  
指導者モーセ

荒野放浪40年 ⇒ カナン定住 ⇒ 統一王国イスラエル

指導者ヨシュア 王ダビデ ⇒ ソロモン

イスラエルの民のしるし

(1)アブラハムの子孫（選ばれた民）としての割礼

(2)奴隷の国エジプトから救い出された民

(3)律法を与えられた民

(4)真の神を礼拝し、仕えるはずの民

血筋のイスラエル

↓

↓

神の目的

御子イエス・キリストによる、罪人の救いの成就 ⇒ 霊的イスラエル=教会  
(異邦人信者も含む)

キリストのひな型 …… ヨセフ モーセ ヨシュア

## I. イスラエルの罪

(1)不信仰…神を信頼し続けることを嫌う

(2)人間（自分）や他の被造物を神とする  
高ぶり  
自己依存

(3)偶像礼拝

見えない神を見える形に造って拝む  
享楽・淫行が伴う

## II. 幕屋と神殿

(1)イスラエルのために神の臨在を示す幕屋があった

荒野で、民とともに移動した

あかしの幕屋には、律法の書かれた板が入った契約の箱があった

神の御心・神の支配の証明

見たとおりの形に造れとモーセに言われた神の命令通りに造られていた

モーセの後継者ヨシュアと民が、カナンの地に入り、先住民を追い払って領土を取らせてもらった時も、始終彼らとともにあった

以降、ダビデの時代までイスラエル人の生活はあかしの幕屋中心

×cf. 43節 イスラエルは幕屋でまことの神を礼拝すべきを、モレクの幕屋で偶像礼拝

(2)ダビデの治世になって、ダビデが神のために御住まいを建てることを願った  
神はそれをよしとせず、認めなかった  
人が神の住まいを建てるのはありえないこと (神がダビデのために家を建てる)  
ダビデが主のために建てようとしたのは、見た目は悪いが移動できる幕屋で  
はなく、一つの場所に固定した神殿 (外見も壮麗)  
ダビデは建てることを許されなかった (準備した) ソロモンが建てて奉建

「いと高き方は、人の手で造った家には住まうことはありえない」

∴神はすべてのものの創造者

天は神の王座、地は足台

神は人が造ったどこにも安息を見いだせない

サムエルⅡ 7・4～17

神は今まで幕屋におられた、宮を建てることを望まなかった、要求しなかった  
ダビデが神のために家を建てるのではなく、神がダビデのために家を建てる  
その世継ぎはソロモン以上の方 ⇒ イエス・キリスト  
その王国はイスラエル以上の国 ⇒ 神の御国

### Ⅲ. 神殿礼拝の問題

礼拝の対象である神にではなく、神殿の立派さや美しさに注目する  
神殿でさえあれば、内容はともかく礼拝したという慢心 (礼拝が形式的、形骸化)  
神の民がそこに安心して、偶像礼拝の一種となる  
ステパノが非難したのはその点、

### Ⅳ. 適用

建物

「教会」は教会堂ではなく、信者の群れ  
ヨーロッパの壮大な教会堂は観光地、中身の信者たちはいない  
いかにすばらしい教会堂で礼拝したとしても、どなたを礼拝しているか、  
神がお定めになったとおりに礼拝しているかが最も重要

日本の教会堂を建てたカナダ人のレイマンの大工さんのお別れ感謝会での言  
「皆さん、忘れないでほしい。私たちが建てたものは教会ではありません。  
皆さんが教会です。」 富山聖書教会新会堂記念誌より

(コリント13・16～17)